

地域防災力は総合力 社会全体で災害に立ち向かおう!!

3月11日の東日本大震災は想定外の被害を与え従来の防災活動を見直すべく大きな転機となりました。この鵜沼でも市を始めとして様々な所で新たな取り組みが行われています。今、鵜沼の防災を理解し、住民皆さんの力を連携し地域防災力を高めましょう。

鵜沼地区の防災対策への新たな取り組み

津波避難情報マップの作成・配布

現在、神奈川県では「津波浸水想定検討部会」を設置して津波の被害想定を検討を進めており、平成23年度中に再検証結果・見直し内容が公表される予定です。

それに先んじて、藤沢市としては、独自に、地域住民に「標高」と「津波避難ビル」をお示し、津波来襲時の避難の一助として活用いただくための「津波避難情報マップ」を作成しました。

出来上がったマップは10月25日号の広報と共に配布いたしました。



緊急津波対策プロジェクト・北部分館プロジェクト発足

鵜沼地区地域経営会議では市民センターの老朽化や、周辺地域に津波来襲時に一時緊急避難場所となる高層建築物が少ない状況の中、地域の防災拠点としての役割を果たすためにも建て替えを検討する必要があるとして、プロジェクトを発足しました。また鵜沼の北部地区には現地地点のセンターは余りにも離れており、鵜沼地区に分館が必要ではないかとの見地から、プロジェクトを発足し、検討する事になりました。

防災行政無線子局の増設

現在、市内に248ヶ所設置されているが「聞こえづらい、聞きにくい、聞こえない」といったご意見が寄せられたことを受けて、津波の危険性の高い、南部地域を中心に、不感地域の解消を目的に、平成23年度内に、子局の増設及び改修を行います。鵜沼地区には、4局の増設が予定されています。



防災ラジオ導入の取り組み

防災行政無線を補完する取り組みとして、防災行政無線の内容が強制的に流れる「簡易型個別受信機」を兼ねたラジオの開発に取り組んでいます。



電柱及びカーブミラーへの海拔表示

JR東海道線以南の地域を中心に、東京電力の電柱約1000本、市管理のカーブミラー約1600本に海拔と海岸からの距離を表示いたします。カーブミラーについては、10月から順次設置しています。

鵜沼地区津波対策「勉強会」を開催

鵜沼地区自治連主催による、津波勉強会を8月から10月にかけて、計3回開催いたしました。内容としては、3.11東日本大震災の現状をボランティア活動の視点から報告、鵜沼地区の過去の津波被害等の歴史、津波が来たときの対応、藤沢市の取り組みなど。

質疑応答の中では「地区防災拠点として鵜沼市民センターの高層化が必要」などのご意見もいただいています。

また、勉強会の内容はホームページ「鵜沼ポータル」で、動画としてご覧になれます。アドレスは <http://fujisawa-kugenuma.ecom-plat.jp/>



津波避難ビル協定拡大

現在、主に国道134号線及び河川から500m以内に点在する「津波避難ビル」(鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造3階建以上の建築物、鵜沼地区では20ヶ所)を、JR東海道線以南まで拡大し、協定の締結を進めています。その中で、9月末までに内諾をいただいた、津波避難ビルを「津波避難情報マップ」に反映いたしました。

鵜沼地区では、地域住民(町内会・自治会)の協力を得て、合計55ヶ所の物件を反映することが出来ました。なお、今後も継続して取り組んでいきます。



要援護者対策部会が名簿の扱いに統一見解

鵜沼地区地域経営会議では、各町内会及び民生委員へのアンケート調査等をもとに災害時要援護者避難支援体制づくりを検討してきました。この中で、市に対して名簿の提供の申し出をした町内会が持つ「災害時に避難支援が必要と思われる方の名簿」の取り扱いや、津波発生時の対応等について様々なご意見・ご要望を頂戴しました。これを受けて、要援護者対策部会としては、一歩ずつ本制度を推進していくため、依然課題の多い津波発生時の対応は別途検討するとして、津波を伴わない地震や水害等の対応について、既に取り組みを進めている町内会の事例を参考に各町内会へ提案することとしました。詳細については、今後の活動の中で報告していきます。

また、市に対して、東日本大震災における被災地の対応等を教訓とした、津波発生時の対応や災害時の要援護者搬送先の明示等、本制度の課題や改善が必要と思われる点、また、市の防災対策の指示系統の一本化等について要望をする予定です。

シリーズ 鵜沼を知ろう

関東大震災の鵜沼

1923(大正12)年9月1日に関東大震災が発生し、20分後に鵜沼海岸に6mの津波が来襲したことが記録されています。旧別荘地は引地川が東へ片瀬境まで蛇行しており、川の北側と河口部の北東に砂丘が形成されていたおかげで一部の浸水でとどまった。一番の遡上は現天金通りで、郵便局・駐在所の前まで来た。東屋の庭池は液状化で噴水の様に水が噴き出した後に2mの津波が流れ込んだ。銀座通りは有田商店の前、西は安場の角(現立花寿司の前)まで来た。現市民センター正門前一体は関根家の田圃で古川(堀川)を遡上した波が侵入し、田圃をあきらめ後に別荘地になった。引地川を

遡った津波は地引網船を作橋(八部)まで押し上げ、浜の砂丘が流され真っ平らになった。

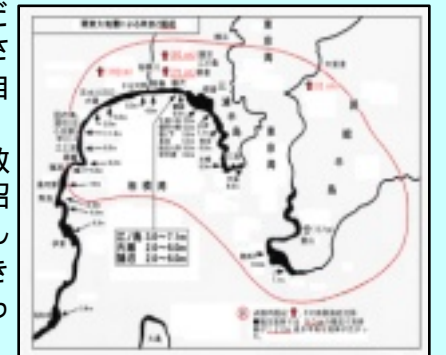
石上から川袋の江ノ電停留所に沿った道路は地盤の悪さもあり、1間半の高さで線路と共に土砂がすべり、川面と等しいまでに崩壊した。9月1日のこの大震災は、緑松の間に点在していた瀟洒な別荘を殆ど全て倒壊し、四辺の井戸や池は噴出した砂で埋まってしまった。



大正10年に結成された自警団

しかし、この惨状で圧死

者が50人で済んだのは2年前に組織され、訓練を積んだ自警団の活躍があり、多くの罹災者が救われた。また、鵜沼海岸は90m隆起し海岸線が120m退き平坦な海岸が広まった。



鵜沼で最高6m、江の島7.1mの津波。鵜沼海岸90m、鎌倉75mの隆起とある。

鵜沼郷土資料展示室